



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



NSL (NAKABAN SUPER LEARNER) 第1号。誕生!!

— Change (変革) , Challenge (挑戦) , Continue (継続) —

昨日、とても嬉しいことがありました。NSL (NAKABAN SUPER LEARNER) 第1号が誕生しました。本当によく頑張りました。目標達成！おめでとう。その子の瞳はキラキラ輝き、笑顔が弾けていました。たった一枚、紙の認定書（右写真参照）ですが、その子にとっての値打ち、価値は大変大きなものと考えます。NLP (NAKABAN LEARNING PROJECT) は「前学年までの総復習」が目標です。全校生が挑戦者です。全校で取り組みます。当然、学年によって実施する問題集の冊数は違います。1年・2年：国・算【2冊】、3年：国・算【4冊】、4年：国・算・社・理【8冊】、5年：国・算・社・理【12冊】、6年：国・算・社・理【16冊】と、違いがあります。高学年になればなるほど問題集の冊数が多くなります。多いか少ないかが問題ではありません。まず、動き始められるか、一步を踏み出せるかどうか、大切なのはその気持ち、思い一つであると思います。前回にも書かせていただきましたが、提出された問題集を確認しているときちゃんと答えを合わせることが如何に難しいかが伺えます。できていないところは付箋を貼って返却する訳ですが、子供達はどう思っているのでしょうか。「めんどくさいなあ。」「これぐらいで・・・。」とか思っている子供もいるかもしれませんね。でも、直しをもってきた子供に「直しの場所、分かった？」と尋ねると、「うん。〇〇がぬけとった。」「(とぼして) してなかった。」等の返事が返ってきます。正しい答えと見比べて答えを確認してくれたことが分かりま



す。そんな時、「偉いなあ。」とつくづく思います。間違いを指摘されることは、誰でもあまり気持ちのいいものではありませんね。しかし、何より、気が付くこと、そのようなことができないことがあるのだと自覚することが大切なことだと思っています。問題集に貼られた付箋にはそんな願いを託しています。また、預かった子供達の問題集は、各学年の学級BOXに入れ、提出した児童が自分で取りにきてもらうようにしています。昨日こんなことがありました。ある学級BOXに問題集が何冊か溜まっていました。その同じ学級の児童が問題集を提出にきたので、私は預かり、「学級BOXに入れておくね。また取りにきてください。」と話しました。その子供の問題集の答えを確認し終えて、その問題集を学級BOXに入れにいきました。ふと気が付くとその学級BOXの溜まっていた問題集が無くなっていました。本の短い時間です。「あの子が、もって行ってくれたのかな？」と頭をよぎりました。下校時、その子供に尋ねてみました。予想は的中しました。立派ですね。心がホッくりあたたかくなりますね。その子はどんな思いでそのようにしたのかな？ちょっとした心遣いかな？でも、嬉しいですね。そして、その子が持ち帰った問題集がどんな風に友達に渡っていったのでしょうか。持ち帰った子供と受け取る子供との間にはどんな会話があったのでしょうか。特に会話はなく、さりげなく机の上に置いたのでしょうか。保護者の皆さんはどんな様子を、どんな情景を思い浮かべられますか。一度、想像してみてください。

昨日、兵庫県の緊急事態宣言延長（9月末日迄）の発表がありました。学校としてもこのことをしっかりと受け止め、この厳しい状況に対応していく為、今後も感染症対策（朝の検温、マスクの着用【不織布のマスクが強く推奨されています】、手洗い、手指の消毒、3密回避等）を徹底します。保護者の皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症についてご心配なことがございましたら遠慮なくご相談ください。中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。